

# 生涯を通じた教育データの利活用

---

2026年3月10日

日本学会協議連携会員／福島国際研究教育機構（F-REI）理事

江村 克己

## 目次 （企業出身の教育の門外漢の視点から）

1. 環境認識（Ⅰ）機能的価値から意味的価値へのシフト
  - これからの時代に必要となる教育とその教育データ活用
2. 環境認識（Ⅱ）加速する技術の進化
  - 養うべき能力
3. 環境認識（Ⅲ）求められる新しいキャリアデザイン
  - 人生100年時代の学び
4. マルチステージのキャリアに教育データを活かす視点
5. 豊かな100年人生のために教育データを活かす

# 環境認識（Ⅰ） 機能的価値から意味的価値へのシフト

## ◆ 高度成長から安定成長、バブル崩壊まで（機能性の追求）

- インフラ整備が進み、安定した生活基盤が確保される
- ものづくりで日本ならびに日本企業が成長
  - Japan as No.1

**均質な優秀（大卒）人材育成、知識偏重教育**



## ◆ 多様性の時代に（意味的価値の追求）

- 課題解決や価値創造が重要に
  - 他分野連携／イノベーションエコシステムが重要に
- 自己実現や社会貢献への意識が高まる
  - Diversity & Inclusion

**多様な人材の育成、主体的な学び**



# これからの時代に必要となる教育とその教育データ活用

- ◆ 個人の興味や才能を個別に活かしていく教育、人材活用を進める時代に
  - 将来の夢を持つ、自分のなりたい姿を描けるようにすることが重要
  - 総合的な探求の時間（STEAM教育）を含め、知識以外の能力、スキルを把握し、見える化することが重要に
  - 雇用においても、どのような能力やスキルを有しているかが重要な判断基準に
    - ✓メンバーシップ型雇用での入社後教育・育成から
    - ✓ジョブ型における既得の能力やスキルをベースにした雇用と個人による継続能力開発に

18歳の意識調査

	将来の夢をもっている	自分は責任がある社会の一員だと思う	自分で国や社会を変えられと思う	自分の国に解決したい社会課題がある
日本	60.1%	44.8%	18.3%	46.4%
インド	95.8%	92.0%	83.4%	89.1%
ベトナム	92.4%	84.8%	47.6%	75.5%
中国	96.0%	96.5%	65.6%	73.4%
イギリス	91.1%	89.8%	50.7%	78.0%
アメリカ	93.7%	88.6%	65.7%	79.4%
ドイツ	92.4%	83.4%	45.9%	65.2%

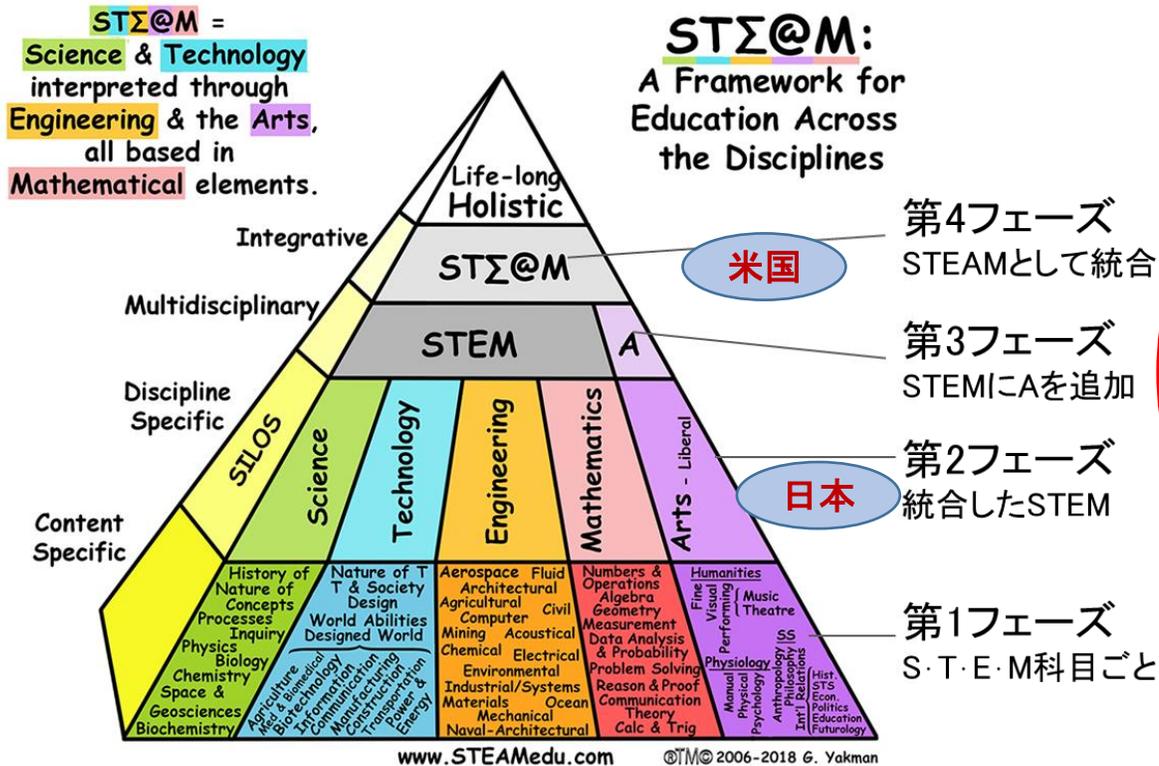
出典：内閣府、原出典：18歳意識調査「第20回 -社会や国に対する意識調査-」令和元年11月（日本財団）

# 主体的、創造的、俯瞰的学びを実現するSTEAM教育

## STEAM教育



5つの領域を対象とした理数教育に創造性教育を加えた教育理念  
探究と創造のサイクルを生み出す、分野横断的な学び



## 【STEAM教育の方向性】

- 個性を伸ばす(才能への気づき)
- 双方向(主体的)
- 複眼的・俯瞰的見方の醸成

## どのようにデータ化するか？

- 共同作業・多様性の気づき
- 答えのない課題にチャレンジ
- 社会と学びの関係の早期養成
- 本物・一流に触れる

# 環境認識（Ⅱ） 加速する技術の進化

## ◆ AIの急速な進展

- 誰もがAIを自由に使う時代に
  - 多くの業務のプロセスが変革される
    - 大幅な業務効率化が進む
- 人が担うべき仕事の変化
  - 必要となる人材能力の向上が求められる
  - 継続的な学びが必要に
- これまでにないリスクの顕在化
  - 過度なAI依存への警鐘
  - 文理融合、総合的な取り組みが必須に

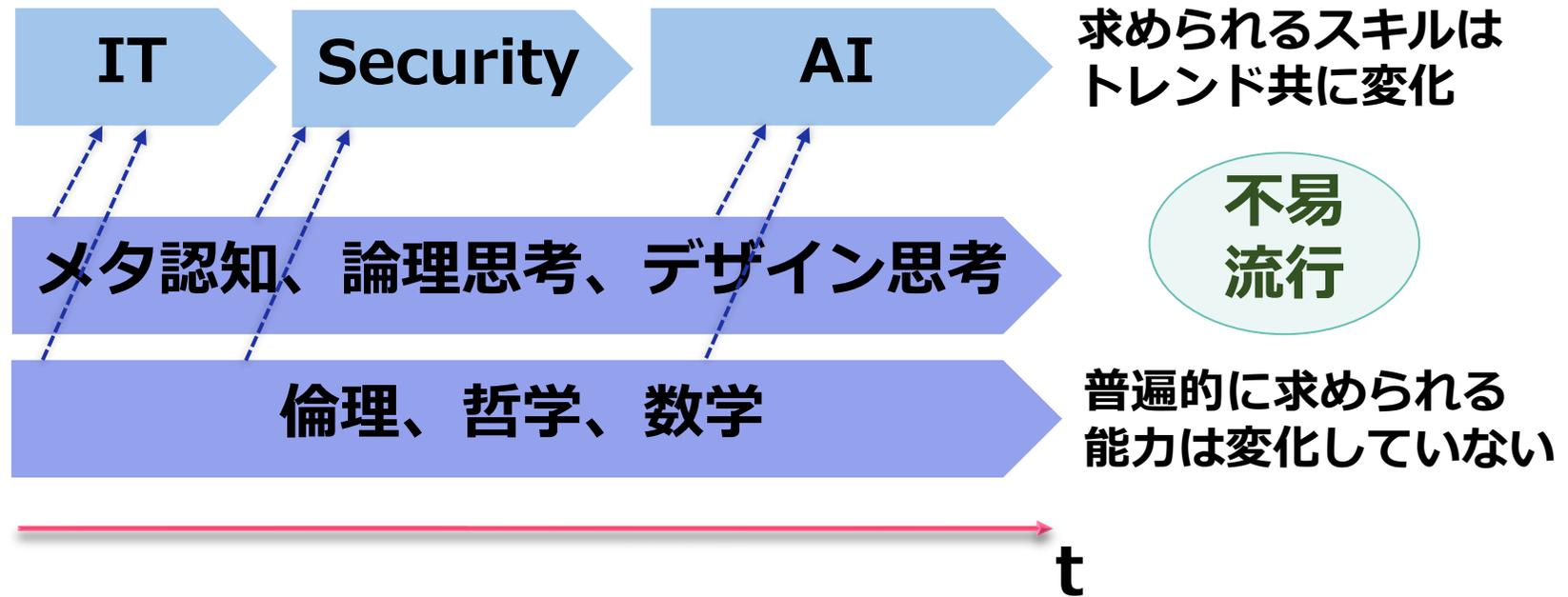
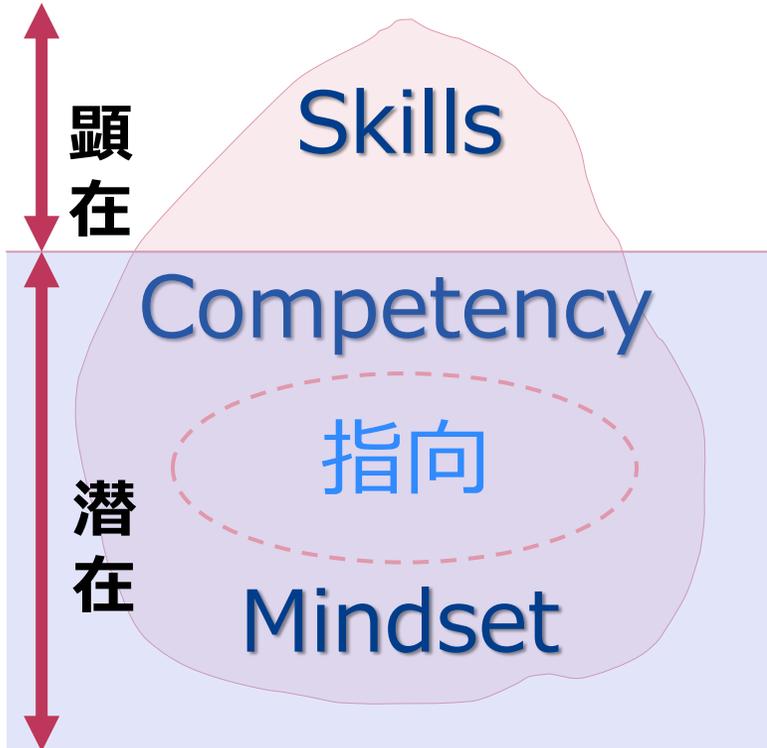
## ◆ デジタル化の進展がもたらす変化

- AIの進展とデジタル化により社会、仕事のあり方が急変
- 技術が社会と仕事を断続的に変化させる時代に

# 養うべき能力

- ◆ 技術進化が加速する中で、変化するスキル要求に柔軟に対応するためにも、基盤となる能力を高めておくことがより重要になっている。

## 人材の冰山モデル



# 環境認識（Ⅲ）求められる新しいキャリアデザイン

◆ 人生100年時代に

◆ 求められる新しいキャリアデザイン

■ 教育→仕事→引退の3ステージモデルの限界

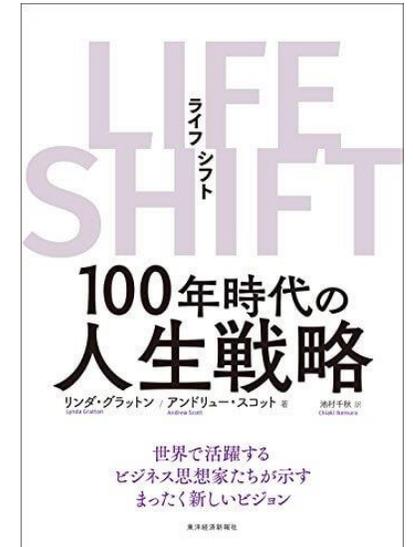
- 求められる仕事の変化、経済的な理由 等

■ マルチステージモデルの時代に



➤ 生涯を通して学び続けることが必須に

➤ 個人の持つ能力・スキルの充実とその活用が重要に



# 人生100年時代の学び

## ◆ Education と Learning

- 知識を得る → 自ら学ぶ、学び方を習得する
- 自らの興味とキャリアを明確にイメージする
- Just in time Learning

## ◆ 学び直し（リカレント教育／リスキリング）

- 学び直しを支援する大学、企業、社会の取り組み
- 継続的な学びを可能にする柔軟な働き方

## ◆ 学び続けることで役立つ人材であり続ける

- Wellbeingな人生をおくる

# マルチステージのキャリアに教育データを活かす視点

## ◆ 教育データを個人の成長とキャリア形成に活かす

- 個人の能力、スキルを明確化することでより良いキャリア形成につなげる
- リカレント教育において次なるキャリアに合わせた学びの最適化を行う
- 個人の能力を活かす採用、ジョブアサイメントをする



## ◆ どんなデータを活かすか？

- 教育に係るデータ ①履修履歴 (Input)、②成績 (Output)、③身につけた能力等 (Outcome)
- 体験に係るデータ
- 多様なデータとAIを活用して本人が有している能力やスキル、興味、意欲の見える化に挑戦することも必要

## ◆ どんな仕組みをつくるか？

# 豊かな100年人生のために教育データを活かす

## ◆ 教育データを継続して利用できるようにする

- 初等中等教育、高等教育、社会人、シルバーエイジを通しての利用を可能にする
  - プラットフォームの構築が必須に
- 個人による自身の教育データの保有、管理を可能にする制度設計
  - パーソナルデータ活用（Personal Data Store）の活用
- データの継続利用が可能にするための法整備、制度改革等
  - データフォーマットの標準化
  - データのセキュリティの確保
- 学び直しの場合としての教育機関の活用（少子化対策にもなる）

## ◆ 生涯にわたる学びを文化に

- 関係者すべての理解とサポートが不可欠
- 制度や財政面からのサポートも必要に

# むすびに代えて:丹羽保次郎氏の言葉より

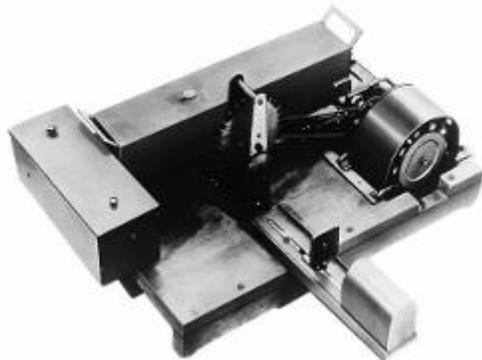


## 「技術は人なり」

“技術は多数の要素が総合されたものであり、  
技術者の構想を多分に必要とする”

“技術も文学や美術と同じく、やはり人が根幹をなすもの”

“技術者は常に人格の陶冶を必要とする”



1928年 国産初の写真電送装置(FAX)

出典 『「技術は人なり」丹羽保次郎の技術論』東京電機大学  
出版局

丹羽保次郎氏:日本の十大発明家の一人  
特許・実用新案 60件 取得